

第3回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」受賞者研究発表会および授与式開催報告

「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として、平成28年度創設されました。

第3回受賞者研究発表会および授与式は、平成31年2月8日（金）13時00分から、文教キャンパス第一会議室において、執り行いました。

【受賞者】

優秀女性研究者賞 多文化社会学部
見原礼子 准教授

優秀女性奨励賞 病院乳腺・内分泌外科
久芳さやか 助教

長崎大学
第三回 長崎大学
未来に羽ばたく女性研究者賞
受賞者研究発表会および授与式

この「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」は、優れた研究成果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的として創設されました。

日時 平成31年2月8日（金）13:00～14:40
場所 文教キャンパス 事務局第一会議室（3階）

受賞者
◇優秀女性研究者賞 見原 礼子 准教授
（多文化社会学部）
◇優秀女性奨励賞 久芳 さやか 助教
（病院 乳腺・内分泌外科）

次 第
1. 開式挨拶 伊東昌子副学長/ダイバーシティ推進センター長
2. 受賞者研究発表
3. 授与式
4. 総評 河野茂学長
5. 閉式挨拶 孫永博後援理事

【お問い合わせ】 国立大学法人長崎大学 ダイバーシティ推進センター
TEL: 095-819-2179 (内線: 3151)
MAIL: omoye_staff@mi.nagasaki-u.ac.jp

1. 開式挨拶（伊東昌子副学長／ダイバーシティ推進センター長）

伊東副学長から、ご列席いただいた方々への御礼と本研究賞の趣旨と概要説明がありました。今年度で第3回を迎えました。また、優秀女性研究者賞と優秀女性奨励者の受賞者二人の更なる研究の飛躍と活躍を期待します。さらに、本日はお二人の研究発表を拝聴して、その後、授賞式を行いますので最後までご列席くださるようお願いいたしますと締めくくられました。

2. 受賞者研究発表

優秀女性奨励賞

病院乳腺・内分泌外科 久芳さやか 助教

■報告内容

①私のワークライフバランスと研究の略歴、②これまで・現在の研究：乳癌治療における臨床研究、③今後の目標を報告。

■今後の研究

根治性・整容性に優れた手術、適切な薬物療法を行う事はもちろんのこと、治療後の人生（妊孕性の温存、遺伝性乳癌卵巣癌症候群）そして家族をサポートできるチーム、人材育成を行い医療を長崎県全域に提供できるよう努力したい。引き続き、臨床研究を推進していきたい。

■このような賞と研究発表の機会をいただき、感謝している。



優秀女性研究者賞

多文化社会学部 見原礼子 准教授

■報告内容

①これまでの研究の略歴、②学びの連続体におけるフォーマル教育（公教育）・ノンフォーマル教育・インフォーマル学習の各領域における研究成果、③今後の研究の展開を報告。

■今後の研究

第一に、ヨーロッパの移民研究者との共同研究・共同実践による研究の社会的還元、第二に、インフォーマル教育の国際比較研究に関する英語共著書籍の出版により、教育社会学の理論的発展へ貢献すること、第三に教育社会学から子ども社会学への展開について、多文化社会における子どもへの暴力や虐待という課題への対処の必要がある。

■ダイバーシティ推進センター担当の様々な支援制度を利用してきた。このような賞をいただき、これまで研究を支えてく



くださったダイバーシティ推進センターのスタッフの方、上司・同僚の方々に感謝している。

3. 授与式

河野学長から受賞者のお二人に、表彰状、研究費としての副賞の目録、記念の盾が贈られました。



4. 総評（河野茂学長）

河野学長は、まず、たくさんの女性研究者の応募を期待したいと語られました。また、受賞者の先生方は、女性研究者ならではの苦労ならびに研究の楽しさについて、後輩などに伝え、ぜひ後進育成にも活かしていただきたいと期待の言葉を述べられました。さらに、大学病院所属の久芳先生の臨床研究への期待と、見原先生の研究については日本国内に注目されている社会問題（最近報道されている子どもの虐待問題など）の解決などに向けて幅広く社会への還元につながるよう願うことを伝えた後、二人が今後も研究および本学の女性リーダーとしての活躍を期待されました。

5 閉式の言葉（福永博俊理事）

福永理事は、見原先生の研究について、多文化社会における移民の教育問題が大切であり、ヨーロッパの事例を鑑みながら日本社会が多文化に進んでいるなかで教育問題に焦点を当てるに大変意義がある研究と評価されました。女性研究者賞は今年度で3回目を迎え、はじめて文系の先生が採択されたことにより、これまでよりも長崎大学に根付いてきたと強く感じると語られました。1980年代中国を視察した時、視察先では女性研究者が三分の一を占めており、中国と比べて当時日本の研究者が少ないことに差を感じられた経験から、日本でもっと女性研究者が活躍できる風土を作る必要性を話されました。いま現在、長崎大学では女性研究者が増えつつあり、数年前と比べ、大きく前進していますが、今後も、女性研究者のスキルアップや昇進などを強化していきたいと締めくくられました。



（写真左から、伊東センター長、下川功理事、福永博俊理事、河野茂学長、見原礼子准教授【優秀女性研究者賞受賞】、久芳さやか助教【優秀女性奨励賞受賞】、葉柳和則学部長、江口晋教授、永田康浩教授、吉田ゆり副センター長）